



CSR報告書

2020



八千代工業株式会社

ヤチヨ企業理念

基本理念

人 間 尊 重
顧 客 第 一

社 是

わたしたちは、世界的視野に立ち、
お客様の満足のために、
卓越した技術と特長ある製品を供給する。

行動指針

- 常に夢をもち若さを保つこと。
- 感性を磨き技を鍛えること。
- 安全で明るく調和のとれた環境を作ること。
- 時間と独創性を重んじること。
- 自らの目標に向かって粘り強く努力すること。

ヤチヨグループが目指す目標

ヤチヨグループはヤチヨ企業理念の実践を通じて、
「社会からその存在を認められ、期待される企業を目指す」

会社概要

社 名
八千代工業株式会社

英文社名
Yachiyo Industry Co., Ltd.

設 立
1953年8月27日

代表者
加藤 憲嗣

資本金
36億8,560万円

従業員数
単独：867名 連結：7,169名 (2020年3月31日現在)

本 社
〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393番地

電 話
04-2955-1211 (代表)

証券取引所
東京証券取引所JASDAQスタンダード上場



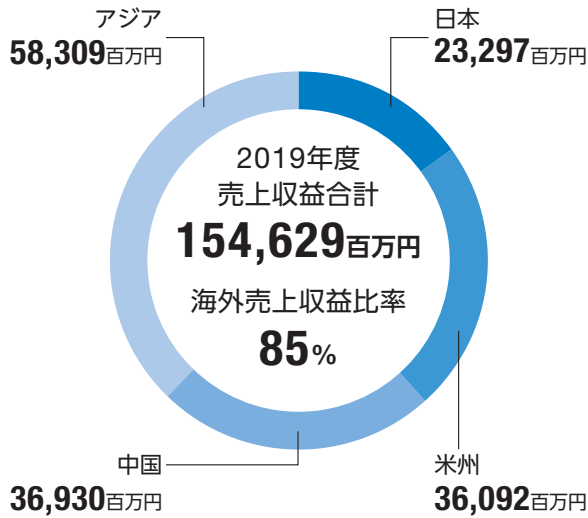
目 次

ヤチヨ企業理念	1
八千代工業について	3
トップメッセージ	5
CSRマネジメント	9
環境マネジメント	11
安全マネジメント	17
品質・サプライチェーンマネジメント	18
人材マネジメント	19
社会貢献	21
コーポレートガバナンス	23
株主・投資家コミュニケーション	26
環境データ	27
財務ハイライト	29

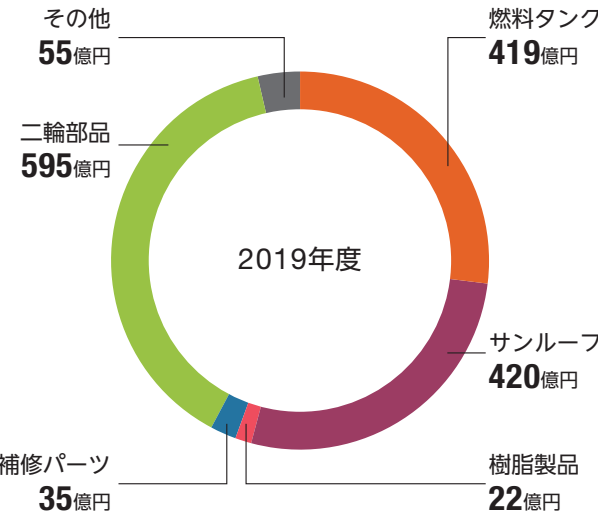
一 八千代工業について

ヤチヨは製造メーカーとして、社会の求める技術や製品を供給するヤチヨの本業を誠実に実行していきます。ヤチヨは真に「社会からその存在を認められ、期待される企業」となるために、ヤチヨ企業理念を十分に理解した上で、変化していく社会の要求に応えていきます。

地域別セグメント



製品別セグメント



グローバルネットワーク (2020年9月現在)

国内	海外
1 本社 柏原工場 鈴鹿工場 鈴鹿工場 亀山事業所 埼玉研究所 栃木研究所 合志技研工業株式会社 株式会社ウエムラテック	米州 米国 2 ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド エーワイ マニュファクチャリング リミテッド ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド 3 ヤチヨ マニュファクチャリング オブ アメリカ エル エル シー メキシコ 4 ヤチヨ メキシコ マニュファクチャリング エス エー デシー ブイ ブラジル 5 ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エコメルシオ デ ペサス リミターダ 中国 6 八千代工業 (中山) 有限公司 7 八千代工業 (武漢) 有限公司 アジア タイ 8 サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド ベトナム 9 ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド フィリピン 10 ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド インド 11 ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド インドネシア 12 ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア



製品ポートフォリオ

1 燃料タンク

クルマの燃料を貯蔵する重要保安部品です。事故時などの安全設計に加え、近年は環境規制への対応や車内空間の拡大ニーズに対応し、薄型化や形状設計を進化させた製品をグローバルに供給しています。

2 サンルーフ

基礎研究から量産までの一貫体制を強みとし、開口面積あたりの重量において、世界トップクラスの軽量化を実現するなど、車体軽量化による環境負荷軽減に貢献しています。

3 樹脂製品

自動車向け樹脂製の内外装部品を製造しています。車内温度の上昇や紫外線の影響など厳しい環境下でも高い品質特性と、デザイン性の高い外観品質を実現しています。

4 補修パーツ

旧型車を修理する場合などに交換で必要となる補修用の樹脂および板金部品を、生産から梱包まで一貫して手がけています。

5 CFRP製品

先端素材のCFRPを用いた製品開発を行っています。
陸上競技用車いす
Honda S660向け CFRP ROOFを製造、一般販売

6 運転補助装置

四肢に不自由を感じる方がクルマを運転をする装置の適合開発から製造を担っています。

7 二輪部品

子会社である合志技研工業グループで、排気部品、骨格部品を製造しています。

沿革

1953

創業者 大竹榮一氏が東京都板橋区に八千代塗装株式会社を設立
Hondaの指定工場となる

1960

三重県鈴鹿市に鈴鹿工場を設立

1968

八千代工業株式会社に商号を変更

1972

埼玉県狭山市に柏原工場を設立
Honda軽四輪乗用車「ライフ ステップバン」の受託生産を開始
※2018年度で完成車受託生産は終了

1977

自動車部品「鉄製燃料タンク」の生産を開始

1982

樹脂成形部品の生産を開始

1986

栃木県さくら市に開発拠点を開設
自動車部品「サンルーフ」の生産を開始

1989

ヤチヨ初の海外拠点をカナダに設立

1998

三重県亀山市に、補修パーツの一貫加工・出荷工場を設立

1999

日本で初めて4種6層「樹脂製燃料タンク」の量産を開始

2004

大阪証券取引所 (現 東京証券取引所) JASDAQスタンダードに株式上場

2012

運転補助装置の適合開発・架装を開始
埼玉県狭山市に次世代技術の開発拠点を開設

2014

CFRP*製品「陸上競技用車いす」の生産を開始
※Carbon Fiber Reinforced Plastics の略。(炭素繊維強化プラスチック)

2017

「Yachiyo Custom Parts」の生産・一般販売を開始



代表取締役社長

加藤 憲嗣

就任あいさつ

本年6月に、代表取締役社長に就任しました加藤憲嗣です。

お客様、株主・投資家の皆さま、当社近隣の皆さまをはじめとして、すべてのステークホルダーの皆さまには、日頃より当社の事業活動を支えていただき、心より御礼申し上げます。

当社は、戦後間もない1947年（昭和22年）に、創業者の大竹栄一が塗装業を興し、浜松から東京に進出してきた本田技研工業株式会社（以下、Honda）のオートバイ部品の塗装を請け負って今日まで、Hondaとの結びつきの中で発展してきました。

この間、当社は、多くの自動車技術の進化に対応してきました。鉄の塊だったクルマは、材料を樹脂やアルミニウムに置換して軽量化を図ってきましたが、当社も、バンパーやインストルメントパネルをはじめとした樹脂製品の生産を開始したり、現在の主力製品の一つである燃料タンクでは、日本でいち早く樹脂化に転じたりするなど、クルマの進化にスピーディに対応してきました。また、もう一つの主力製品であるサンルーフでも薄型化や軽量化を徹底追求し、加えて、より開放感の高いパノラマ化を進めるなど、お客様のニーズに合わせ進化させてきました。

新しいものを生み出すことには多くの苦勞が伴いましたが、それぞれを製品として完成させ、世界中のお客様にお届けしてきました。私は当社を、進化に柔軟に対応できる、とても器用な組織であると自負しています。

また、2010年以降の10年間では、ボディ骨格部品の生産やHonda軽自動車の受託生産

を終了する一方、機能部品のグローバルサプライヤーを目指して、中南米やアジアに、燃料タンク・サンルーフの新たな生産拠点を築いてグローバルな供給体制を確立するなど、事業の選択と集中による大きな業容転換を果たしました。激しい競争下での生き残りをかけ、これらの業容転換を見事に実現してきた当社従業員一人ひとりのスキルは、確実にレベルアップを果たしています。

当社には、創業以来のさまざまなものづくりで得た、豊富なノウハウと、ひたむきに粘り強く仕事に取り組む姿勢が息づいています。チャレンジのたびに磨き続けてきた、この「ものづくり力」と「人間力」は、当社の大きな強みです。

Vision2030と 第14次中期での足元固め

当社は今年、“Yachiyo Vision2030”を公表しました。そのステートメントは『ものづくりの弛まぬ進化でモビリティのキーカンパニーになる』と決めました。当社が勝負するフィールドを「モビリティ」＝「人の移動に関わる領域」とした上で、当社の強みである「ものづくり力」と「人間力」を生かして、緩むことなく、怠ることなく、ものづくりを進化させていく。そして、自動車メーカーをはじめとしたさまざまなお客様に「ヤチヨさん、ぜひお願いします」「ヤチヨさんの技術や製品が、私たちにはぜひ必要です」と言われる会社＝「キーカンパニー」になることを目指していきます。

ここ数年、一部拠点における生産トラブル

や、品質不具合の発生などにより、業績が低迷し、ステークホルダーの皆さまの期待に応えられていない状況が続いています。大変申し訳なく思います。

昨年、私はHondaから当社に赴任し、生産改革担当の立場で課題解決の指揮にあたってきました。実態として明らかになったのは、この10年の急激な業容転換の過程において、技術進化させた製品の立ち上げや人材の育成などに対して、グローバルに支援していくマネジメントが不足してしまったということです。現在、改めてQ（品質）C（コスト）D（デリバリー）の観点を含め、一つひとつの課題解決に取り組んでいます。

Vision2030を定める過程では、私たちのミッション（存在意義・果たすべき使命）は何かという議論も尽くし、それは「心をこめたものづくりで世界中の人たちを笑顔にする」ことである、と決めました。皆さまの期待に応えられていない現状に対し、課題を確実に解決して、すべてのステークホルダーの皆さまに笑顔になっていただけるよう全力で取り組んでいきます。

また、この4月から2023年3月までの中期3カ年（以下、14中）は、Vision2030達成に向けた最初の中期となります。当社は、この14中を「さらなる成長の基盤づくり」の期と位置づけています。先ほど申し上げた反省と課題を踏まえ、足元固めの施策を進めて、筋肉質な企業体質にすることに注力します。また「人と組織の活性化・人材強化」「企業価値向上に向けたサステナビリティ展開」は中長期の観点で取り組むべき重要な柱であり、14中でも重点施策として、前の中期から継続して推進していきます。

ヤチヨ企業理念の実践こそが持続的成長の源泉

足元では、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、当社の生産量も当初の計画から減少するなど、取り組むべき課題がさらに増えている状況ですが、このような時こそ、緊張感を持ちつつも従業員全員で元気に前向きに仕事を進めていきたいと思います。当社の発展は、従業員が明るくイキイキと働くことが原動力であり、経営のかじ取りを預かる者として、その環境をしっかりとつくっていききたいと思います。

現在、社内では、“One Team One Yachiyo”をグローバルスローガンとして掲げています。レベルアップを果たした一人ひとりのスキルを、チームワークの発揮により大きな総合力にして、課題に対応していききたいと思います。

当社で働く全員には共有の目標があります。Vision2030を策定する上でも考え方の土台となった「ヤチヨ企業理念」です。本報告書でも一番初めのページに掲載しています。

「ヤチヨ企業理念」では、私たちが目指す目標を「ヤチヨ企業理念の実践を通じて『社会からその存在を認められ、期待される企業を目指す』』としています。また、「ヤチヨ企業理念」では、「基本理念」「社是」「行動指針」を定めていますが、その考え方の一つひとつは、SDGsの達成に向けて取るべき行動とほぼ合致していると認識しています。当社は、従業員全員で「ヤチヨ企業理念」を実践し、持続可能な社会の実現と、当社の永続的な発展に向け、常に邁進してまいります。

引き続き、皆さまのご支援を賜りますようお願いいたします。

中期事業計画

ヤチヨは、ヤチヨで働く全員がベクトルを合わせてワンチームになり、2030年に「ものづくりの弛まぬ進化でモビリティのキーカンパニーになる」ことを目指しています。



CSR方針

近年、気候変動や生物多様性の損失、貧困や格差、紛争や人権侵害など、環境、社会問題が多様化する中、企業には「環境」「社会」「経済」の視点から社会的課題の解決に積極的に取り組むことが求められています。

ヤチヨが行う事業そのものはもちろん、普段から取り組んでいる省エネルギーや節水、安全・品質活動、従業員への福利厚生など、すべての行動がCSR活動として社会的課題と密接につながっています。

このような新たな潮流の中、これからもヤチヨは企業理念の共有と実践を通じて、企業価値向上に向けた事業を展開することで、「社会からその存在を認められ、期待される企業」を目指します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



Environment



— 環境マネジメント

- 環境基本方針
- 環境マネジメント体制
- 環境マネジメントシステム
- エコプロダクツ、3Rへの取り組み
- 気候変動への取り組み、マテリアルフロー
- 2019年度環境目標・環境実績、2020年度環境目標
- 省エネルギー、オゾン層保護・地球温暖化への対応、汚染防止対策
- 法規制への対応、ゼロカーボン埼玉

Social



— 安全マネジメント

— 品質・サプライチェーンマネジメント

- 品質目標、品質方針、品質保証体制の強化
- 購買理念と購買原則、ガイドラインの策定

— 人材マネジメント

- 人材育成の基本的考え方、職場環境
- ダイバーシティ

— 社会貢献

- 地域に根差した活動
- 製品を通じた社会貢献

Governance



— コーポレートガバナンス

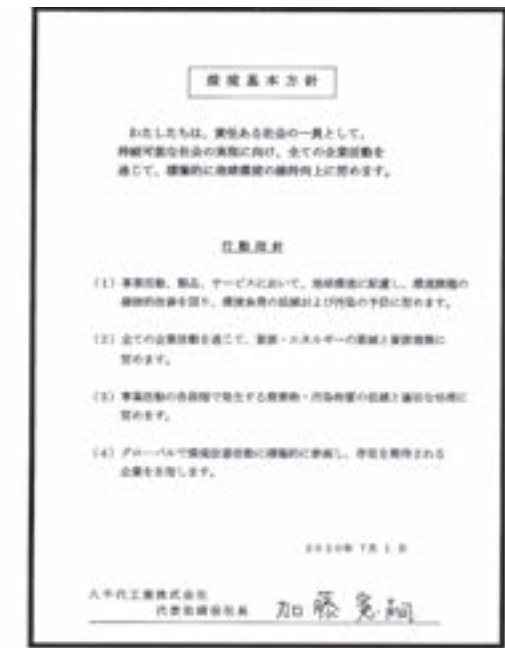
- 基本的な考え方、コーポレートガバナンスコードへの対応
- リスクマネジメント
- コンプライアンス

— 株主・投資家コミュニケーション



環境基本方針

ヤチヨは、下記の環境基本方針および行動指針に基づき、さらに各事業所においてそれぞれの方針を定め、環境保全活動を推進しています。



環境マネジメントシステム

国内2地区、国内子会社1社、海外子会社12社で、ISO14001の認証を取得しています。

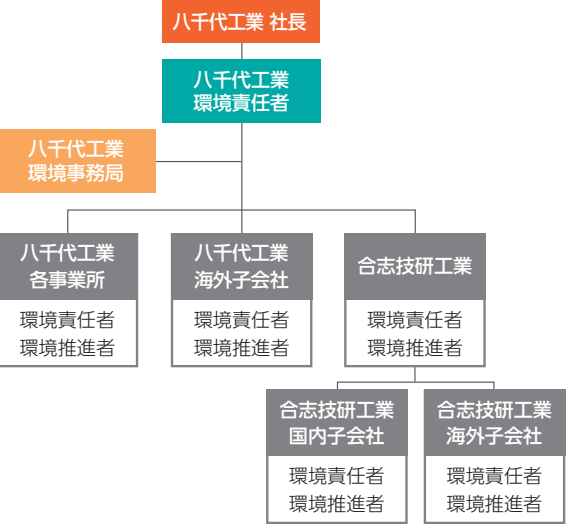
● ISO14001 認証取得状況

拠点名	取得年月
当社 柏原地区（本社、柏原工場、埼玉研究所）	1999年 2月
合志技研工業株式会社	1999年 3月
当社 鈴鹿工場（鈴鹿工場、亀山事業所）	2000年 2月
サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド（タイ）	2000年11月
サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド（タイ）	2002年 2月
エー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド（米国）	2003年 4月
八千代工業（中山）有限公司（中国）	2006年12月
八千代工業（武漢）有限公司（中国）	2009年 3月
ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド（ベトナム）	2009年11月
ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デシー ブイ（メキシコ）	2016年 3月
ヤチヨ ドブラジル インドストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ（ブラジル）	2016年 6月
ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド（インド）	2016年 7月
ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア（インドネシア）	2017年 7月
ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー（米国）	2018年12月
ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド（フィリピン）	2020年 3月

環境マネジメント体制

グローバルヤチヨとして環境への取り組みをさらに迅速なものとするため、環境責任者および環境事務局との連携強化を目的とし、すべての事業所と直結の体制としました。

各事業所に環境責任者と環境推進者を配置し、海外子会社においては現地法人社長を環境責任者としています。



エコプロダクツ

環境規制対応 樹脂製燃料タンクの開発

世界で最も厳しいレベルの自動車排出ガス規制である PZEV※にも対応しています。樹脂製燃料タンクを主力製品に持つヤチヨは、いち早くPZEV規制に対応する燃料タンクを製品化するべく、材料の割合やタンク素材開発に独自に取り組みました。トップクラスの安全性、そして、環境への配慮の両面において製品力を向上させています。

※ Partial-Credit Zero Emission Vehicleの略。米カリフォルニア州大気資源局が制定する厳しい排出ガス規制です。

① 樹脂材料の開発

バリア材であるEVOH®のエチレン量を減らし、ビニルアルコールの割合を増やすことで透過抑制性能を向上
※ エチレンビニルアルコール

② 構成部品の開発

タンクに溶着される構成部品を、低透過材と変性HDPEの2種類の材料で成形することで低透過を実現

③ シール構造の開発

透過抑制性能を向上させるシール構造を採用

④ ブロー成形時のピンチオフ形状の最適化

ピンチ部を改良することにより、同部位からの透過を低減

3Rへの取り組み

Reduce（リデュース）

【樹脂製燃料タンク】

自動車の部品として、さらなる軽量化を推進しています。新材料（高剛性材）を適用することにより、燃料タンク本体の剛性、耐圧性、耐衝撃性などを維持し、限界まで肉厚を薄くしました。それにより、従来よりも15%の軽量化を実現しています。

今後も、さらなる軽量化を目指し、薄肉化のほか、新たな部品構成方法などの検討を進めていきます。

【サンルーフ】

近年、自動車は地球環境保護の観点から燃費向上が求められており、それには軽量化を図る必要があります。ヤチヨのサンルーフは従来品に対し、大幅な軽量化を実現しました。

また、車内の快適性向上のため、薄型化による車内での空間確保、低作動音による静しゅく性などに配慮した製品を生産しています。

Recycle（リサイクル）

【樹脂製燃料タンク】

①燃料タンク成形時に発生するバリ（不要部分）を粉碎精製し再生材（リサイクル材）にして、燃料タンクの素材として使用することで、歩留まりの向上を実現しています。



②ガス漏れ検査装置に使用しているヘリウムガスを、検査完了後、回収精製装置で回収し、繰り返し利用することにより、環境影響の最小化に取り組んでいます。

気候変動への取り組み

近年、地球温暖化による気候変動への対応が求められる中、自社領域におけるエネルギー起源のCO₂排出量のみならず、非エネルギー起源の排出量や、スコープ3に該当するその他の間接排出量も把握することにより、温室効果ガスの低減に取り組んでいます。

※スコープ1 非エネルギー起源の排出は、第一種特定製品（フロン法算定 漏えい量）、第二種特定製品（カーエアコンガス充填時漏えい量）および工業用ドライアイス
※電力換算係数は、国内固定係数0.378を使用
※スコープ3 カテゴリー1は、サプライチェーン内における外作、構成品を対象として集計

2019年度 温室効果ガス排出量

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

GHGプロトコル		排出量
スコープ1	エネルギー起源	3,838t-CO ₂
	非エネルギー起源	8t-CO ₂
スコープ2	間接排出	12,239t-CO ₂
スコープ1+スコープ2 合計		16,085t-CO ₂
スコープ3	カテゴリー1の一部	3,717t-CO ₂
	カテゴリー9	1,960t-CO ₂

用語の説明

- GHGプロトコル…温室効果ガス (Greenhouse Gas) 排出量の算定と報告の基準
- スコープ…温室効果ガス排出内容の定義
 - スコープ1 (直接排出量) = 自社の工場、オフィス、車両など
 - スコープ2 (エネルギー起源間接排出量) = 電力など自社で消費したエネルギー
 - スコープ3 (その他の間接排出量)
- カテゴリー…スコープ3を15項目+その他 (任意) に分けたもの

CO₂排出量 低減施策

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

事業環境の変化に影響されにくい削減管理として、施策によって低減したCO₂排出量を把握できるようにしています。
当社国内事業所を対象に、全施策を環境委員会で一元管理し、環境委員会開催時に事例報告を行い、情報共有と水平展開を図っています。主に、エネルギー効率の向上として高効率の新設備への更新、およびロス削減として既存設備の改善を実施し、環境に対するマナーとして取り組む地道な施策も含め、40施策を展開しました。

管理項目	目標	実績
CO ₂ 排出量 低減施策効果	160 t-CO ₂ ／年	234t-CO ₂ ／年 (40施策)

マテリアルフロー

事業活動 (研究開発、営業、購買、製造、管理) 全般における資源・エネルギーの投入量 (Input) と排出量 (Output) を把握し、事業活動に役立てていきます。

● 投入量 (Input)

区分	項目	使用量
エネルギー	電力 (買電)	32,379MWh
	灯油	27kL
	軽油	0kL
	LPガス	11t
	都市ガス	1,667千m ³
水資源	電力 (太陽光)	0MWh
	地下水	0m ³
	工業用水	23,894m ³
化学物質	上水	54,646m ³
	取扱量	244t
原材料	鋼材	324t
	樹脂材	6,915t
	樹脂リサイクル材	2,835t



● 排出量 (Output)

区分	項目	使用量
排出	CO ₂	16,085t-CO ₂
	NOx	0.08t
	SOx	0t
	排水	27,217m ³
	VOC	306t
化学物質	PRTR対象物質	148t
	産業廃棄物	751t
廃棄物 原材料	直接埋立処分	0t
	社外リサイクル	751t
	有価物	4,451t

用語の説明

- NOx…窒素酸化物
- SOx…硫黄酸化物
- VOC…Volatile Organic Compounds = 揮発性有機化合物
- PRTR…Pollutant Release and Transfer Register = 化学物質排出移動量届出制度

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

2019年度 環境目標・環境実績

ヤチヨは、責任ある社会の一員として、環境活動のグローバル展開を進めており、とりわけ気候変動 (地球温暖化)、エネルギーリスクを重要課題と認識し、環境負荷のさらなる低減に向けて取り組みを継続しています。
2019年度の環境実績は、下記の通りとなります。

区 分	目 標	実績値	達成度
エネルギー起源CO ₂ 総排出量 ^{※1}	22,500t-CO ₂ 1990年度比25%減	16,085t-CO₂	○
CO ₂ 排出量 原単位 (付加価値額原単位)	2016年度比3%減	8.9%増	△
VOC排出量 原単位 ^{※2} (塗装面積当たり原単位)	前年度比1%減	17.2%増	△
水資源使用量 原単位 ^{※2} (付加価値額原単位)	前年度比1%減	7.0%増	△
廃棄物量 原単位 ^{※2} (付加価値額原単位)	前年度比1%減	16.2%減	○
CO ₂ 排出量 低減施策効果 (前年度総排出量 1.0%相当分削減)	160t-CO ₂	234t-CO₂	○

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

達成度判定

○=95%以上
△=80%以上
×=80%未満

2020年度 環境目標

2020年度から2022年度の中期3カ年環境目標を設定しました。2020年度の目標は右記の通りとなります。
今後もヤチヨは、持続可能な社会の実現に向けて、環境活動を企業活動の中核課題とし、活動を強化していきます。

項 目	目 標
エネルギー起源CO ₂ 総排出量 ^{※1}	21,600t-CO ₂ 1990年度比28%減
CO ₂ 排出量 原単位 (付加価値額原単位)	2019年度比1%減
VOC排出量 原単位 ^{※2} (塗装面積当たり原単位)	2019年度比1%減
水資源使用量 原単位 ^{※2} (付加価値額原単位)	2019年度比1%減
廃棄物量 原単位 ^{※2} (付加価値額原単位)	2019年度比1%減
CO ₂ 排出量 低減施策効果 (前年度総排出量 1.0%相当分削減)	160t-CO ₂

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

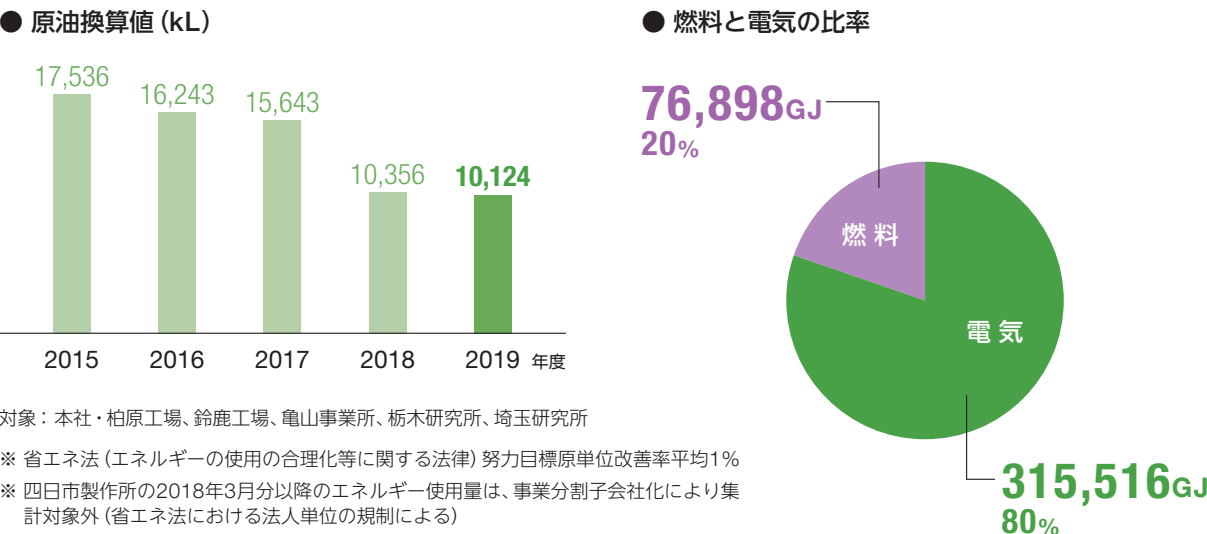
電力係数は、日本固定 1 MWh当たり0.378 t-CO₂を使用しています。

※1 CO₂総排出量は、業界団体 (一般社団法人 日本自動車工業会、一般社団法人 日本自動車車体工業会) の公表値2020年目標28%削減 (1990年比) に準じ、長期目標を設定して排出量管理を実施

※2 VOC排出量、水資源使用量、廃棄物量の原単位は、毎年、連続して低減していきたいという観点から、前年度比1%減を設定

省エネルギー

2019年度のエネルギー使用量は、原油換算値で10,124kLとなり、前年度比97.8%となりました。
原単位は、対前年度比112.5%、5年度間の平均原単位変化において100.6%となりました。今後、省エネ法の
努力目標達成に向け、省エネ活動をさらに強化していきます。



オゾン層保護・地球温暖化への対応

第1種特定製品

ヤチヨでは、第1種特定製品の機器のリスト化、点検表の整備を行い、全事業所でフロン排出抑制法への対応を行っています。2019年度の算定漏えい量について、下表の通り報告義務はありませんでした。

冷媒ガス	漏えい量	GWP	CO ₂ 換算
R407C	6.1Kg	1,770	10.80t-CO ₂
R507A	-1.0Kg	3,990	-3.99t-CO ₂
算定漏えい量			6.81t-CO ₂

対象： 本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

事業者は、第1種特定製品の簡易点検（1回／四半期）、一定規模以上の機器においては、有資格者による定期点検（1回／年または1回／3年）が義務化され、整備に伴う冷媒ガスの漏えい量（充填量と回収量の差）が、1,000t-CO₂（GWPによるCO₂換算）以上の場合、事業所管大臣への報告が必要となる。

用語の説明

■GWP・・Global Warming Potential
=CO₂を1とした場合の温暖化影響の強さを表す値

汚染防止対策

柏原工場、鈴鹿工場では、土壌および地下水の調査を行った結果、環境基準値を超えるテトラクロロエチレンが検出されたため、2004年から地下水揚水バリア井戸を設置し、浄化装置にて浄化を継続して行っています。定期的に、浄化状況について測定を行い、市に報告を行っています。

法規制への対応

環境関連の法規制遵守状況

2019年度、環境関連の法令違反はありませんでした。

環境関連の法の執行状況

省エネ法において、2016年度に制度化された事業者クラス分け評価制度において、2019年度Aクラス評価でした。クラス分けの判断基準となる2018年度定期報告の結果は、原単位対前年度比98.6%、5年度間平均原単位変化99.6%でした。

環境に関する苦情・トラブル

2019年度、地域などからの苦情はありませんでした。
地域などから苦情を受けた場合、全社で情報共有を行い、同様の環境に関する苦情・トラブルの再発防止を図っています。

ゼロカーボン埼玉

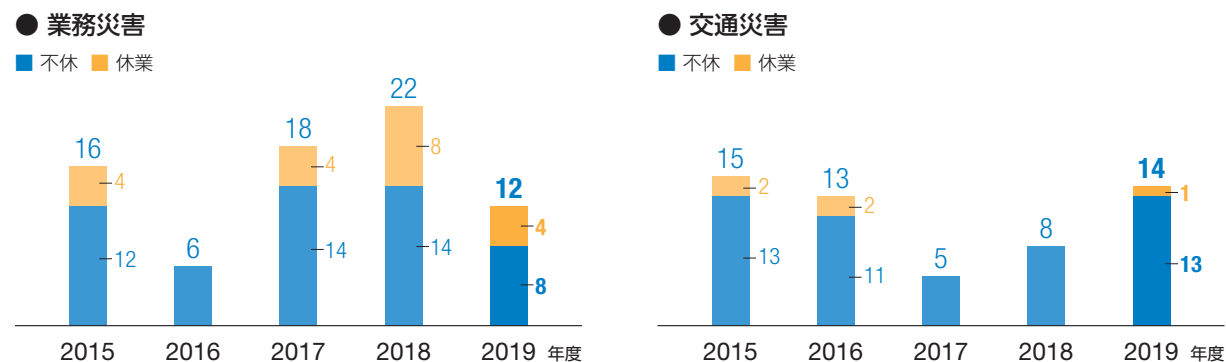
中期計画における重点施策のひとつとして「企業価値向上に向けたサステナビリティ展開」を掲げ、ヤチヨのすべての従業員がそれぞれの役割と責任に照らして自ら行動しています。
このような取り組みの中、ヤチヨはカーボンオフセットに係る埼玉県の取り組み「ゼロカーボン埼玉」に協力し2020年2月7日付で、埼玉県目標設定型排出量取引制度に基づくCO₂クレジット18,556tの寄付を行い、埼玉県から御礼状を受贈しました。

ゼロカーボン埼玉に関する詳細は以下、埼玉県ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0502/olympic.html>



安全衛生

さまざまな取り組みを行っているものの、業務災害/交通災害の件数は減少していないのが実態であり2020年度も引き続き、「重点リスク管理」と捉え、全社で「安全衛生リスク」に取り組み、災害ゼロを目指します。



重点リスク管理のひとつとして、全社で「安全衛生リスク」の対応を行ってきました。労働安全衛生法および関連法令に基づき、実態調査と是正を実施。安全衛生管理規程に反映し、周知徹底を行い継続的改善を推進します。

全社安全衛生委員会

ヤチヨで働く一人ひとりが安心して働ける労働環境を維持するために、職場環境のリスクを適切に管理し、安全で衛生的な職場づくりを行っています。

年4回委員会を開催し、事業所別での災害防止活動を確認し巡視を行うことで労働災害未然防止につながる活動を行っています。

労働安全の取り組み

各地区の委員会活動の中で労働災害ゼロに向けた取り組みを行っています。

●安全巡視(全社委員会)

栃木地区 7月30日 指摘 5件
 埼玉地区 5月30日 指摘12件
 三重地区 1月27日 指摘 5件

●防災訓練(各地区)

栃木地区 9月20日
 埼玉地区 11月26日(夜間6月28日)
 三重地区 6月21日

●安全教育

新入社員 4月、9月
 新任指導員 4月
 新任主任 5月
 新任管理職 6月

●健康診断

栃木地区 6月(受診率100%)
 埼玉地区 6月(受診率100%)
 三重地区 7月(受診率100%)

交通安全の取り組み

地域自治体、ホンダグループ企業合同で交通安全教育の一環として安全運転講習に参加し従業員への指導者育成、従業員自身の安全運転意識の向上を図り交通事故をなくす活動に取り組んでいます。

●親子交通安全教室(HPI※)

2019年11月23日(亀山事業所)
 ※ホンダパートナーシップインストラクター



●交通安全講話(狭山警察署)

2019年12月17日(本社食堂)



●安全運転講習(レインボーモータースクール)

2020年2月25日(ツインリンクもてぎ)

無事故・無違反の取り組み

事業所別に、各公安委員会の無事故・無違反コンクールに登録し従業員一人ひとりが目標達成に向けて取り組んできました。

●無事故・無違反チャレンジ(三重地区)

219名参加 215名達成

●交通安全コンクール(埼玉地区)

30名参加 30名達成

品質目標

ヤチヨでは、「品質」と「納期」を最優先に、品質方針を策定し、品質保証の諸活動に取り組んでいます。ヤチヨ全社品質方針のもと、品質保証体制の構築と現場での実践を徹底しています。

品質方針

「顧客第一」を徹底し、私たちの製品を購入・使用していただく全てのお客様の満足を得るために、全員参加で、グローバルに通用する信頼性の高い製品を提供します。

行動指針

お客様要求事項への適合を図り、

- 品質方針を達成するため、品質目標を設定し、推進する。
 - 開発からサービスに至る全工程で品質マネジメントシステムを効果的に運用し、継続的改善を図る。
 - 品質管理のルールを守り、安定した品質の製品を提供する。
 - お客様および市場の要求品質を反映した製品設計仕様で、絶えず商品性向上を図る。
 - 独創的で信頼性の高い製品を提供するために、常に技術および技能の向上を図る。
 - サプライヤーとの共創で、製品品質の維持向上を図り、高品質の製品を提供する。
- これらの品質管理活動が、現場視点で、常に、検証されること。

品質保証体制の強化

自動車産業における国際標準規格である、品質マネジメントシステム(IATF16949)の認証取得を推進しています。海外の7拠点で既に認証を取得しているほか、日本では2013年2月に「樹脂製燃料タンクとサンルーフの設計および製造」の領域において認証(当時ISO9001)を取得しました。この認証取得を通じて、グローバルに通用する盤石な品質保証体制を構築していきます。

顧客第一を徹底する上でも、IATF16949により、より安全でより高品質な製品を提供しつづけ、さらなる強化をしてまいります。

また、市場に発生した不具合についても、IATF16949に基づいて、不具合情報区分ごとの情報受付部門および行動等級設定から定めた体系図にて対応します。また、不具合情報を水平展開し再発防止を行っています。

購買理念と購買原則

ヤチヨは、技術・製品の競争力、事業、人材でトップランナーとなり、社会からその存在を認められ、期待される企業を目指しています。購買部門では競争力が高く魅力ある部品・材料の調達を進めますが、取引にあたり「購買理念」、「購買原則」を定め、お取引先との信頼関係を常に強化していきます。

購買理念

良いものをタイミング良く適正な価格で、
 永続的に進化を続ける、競争力ある調達を行う。

購買原則

- 取引先の尊重と相互信頼**
 取引先の主体性を尊重し、対等な立場で取引を行います。
- 自由でチャレンジする調達**
 魅力ある製品を供給する取引先と積極的に取引を行います。
- オープンで健全な調達**
 「ヤチヨ購買行動規範」を定め、オープンで健全な取引を行います。
- 環境展開と法令遵守**
 サステナビリティに対し積極的に対応していきます。
 (環境対応、紛争鉱物への対応、法令遵守、BCP、反社会的勢力、安全・品質)

ガイドラインの策定

ヤチヨは、サステナビリティに対する考え方を取引先と共有し、積極的に対応するための「ヤチヨ取引先ガイドライン」を発行しています。このガイドラインを通じて、安全・品質、人権労働、環境、コンプライアンス、情報開示など問題事象の未然防止に努めています。

人材育成の基本的考え方

ヤチヨ企業理念を基本とし人材育成に取り組むことで、社会からその存在を認められ、期待される企業を目指します。人の成長や努力が組織力につながると考えています。従業員が「夢や希望を抱いてその実現のために思考し創造する存在」であり、一人ひとりの能力が向上し努力した結果、企業が成長し「社会からその存在を認められ、期待される企業」となるよう目指します。

職場環境

職場でのコミュニケーション

ともに働く一人ひとりが常にお互いを信頼しあえるような職場の形成に努めます。
調和のとれた働きができるよう、職場での円滑なコミュニケーションに努めます。

人権の尊重

強制労働や児童労働などの人権侵害を一切行わず、人権を尊重する誠実で公平な企業であり続けます。他の従業員を尊重し誠実で公平な態度で接するとともに、職場におけるあらゆる形態のハラスメントや不当な差別的言動を一切行いません。

多様性の尊重

個人の持つさまざまな価値観や個性の違いを尊重し、育み、多様な人材が持てる力を十分に発揮できる職場の形成に努めます。一人ひとりの多様性を認め、自らも職場で個性を発揮するよう努めます。YVAP活動(被災地域へのボランティア活動、障がい者施設への支援活動など)は、その場で自分のできること、するべきことを考えて行動します。そこから活動者が体験し、学び、感じることは人間形成を促し、「人間尊重」「顧客第一」を2本柱とする企業理念の実践にもつながると考えています。

ワークライフバランス

従業員が生き生きと働くためには、ワークライフバランスが重要と認識し、「働きやすい職場」を目指します。また、育児・介護対象者を含めた、仕事と生活の両立にむけ、各種制度の充実化を図ります。
さらに労使間で協力して適切に労働時間を管理し、長時間労働の抑制に取り組んでいます。年次有給休暇についても、繰越残日数を100%取得できるよう取り組んでいます。

年度	2017	2018	2019
組合員数(人)	743	751	757
有給休暇平均取得日数(日)	20.9	19.0	19.1
有休取得日数(日)	12,653	12,462	12,548
取得率(%)	100	100	100
残業時間平均(時間)	253.9	249.4	203.3

フレックス勤務制度

月間勤務時間の中で、日ごとの労働時間の長さあるいは「始業」および「終業」時刻を自主的に決定できます。

半日有給休暇制度

年間3日分(6回)までを上限に有給休暇の半日単位での取得ができます。

有給休暇

前年度から繰り越された有給休暇(最大20日)を年度内に100%取得することを継続しています。

看護休暇

小学校就学前の子どもの看護を理由として、最大5日の(有給)休暇の取得ができます。

介護休暇

要介護状態にある家族の介護その他の世話が理由で、一人に対し最大5日、二人以上の場合10日(無給)休暇の取得ができます。

ボランティア休暇

ボランティア参加のため最大5日の(有給)休暇の取得ができます。

ダイバーシティ

次世代法・女性活躍推進(2020年4月1日～2025年3月31日)

次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、かつ、育成される環境を整備することを目的として施行された「次世代育成支援対策法」に基づく行動計画の策定、および従業員周知、外部公表、都道府県労働局への届出を2020年度より女性活躍推進法と一体型にて実施しています。

目標①	女性従業員の採用率を10%以上
目標②	フレックスタイム制の拡充と在宅勤務などの柔軟な働き方に資する制度の導入を目指す

	2017	2018	2019
女性採用実績	11.1% (3人)	15.8% (6人)	3.5% (1人)

障がい者雇用

ヤチヨが今後も持続的に発展していくためには、基本理念である「人間尊重」に基づき、一人ひとりを違いのある個性として認め合い尊重し、多様な人材が持てる力を存分に発揮することで、企業としての総合力を高めていく必要があります。

	2017	2018	2019
障がい者雇用実績	2.9% (19人)	2.3% (17人)	2.7% (19人)

【雇用継続への取り組みなど】

各事業所に、障がい者職業生活相談員を配置しています。

支援センターの職員と連携し、当該従業員と定期的な個別面談を実施し、フォローアップに努めています。

障がい者合同就職説明会などで求人活動を行い、採用時には求職者に対して職場見学を実施し、求職者との間でマッチングを図っています。配属時には本人の適性を十分考慮し、働きやすい環境づくりに努めています。また、フレックスタイム制の導入により、本人の体調に合わせた働き方ができる仕組みを整えています。

障がい者スポーツの積極的な支援の取り組みとして、パラアスリートを雇用し競技活動を支援しています。

多様な働き方実践企業認定制度

2013年12月11日付けで埼玉県「多様な働き方実践企業認定制度」に「ゴールド」区分で認定され2018年10月1日付けで「ゴールド+」で認定を受けました。

ヤチヨは、仕事と子育てなどの両立を支援するため、多様な働き方を実践することですべての人が、生き生きと働き続けられる環境づくりを推進してまいります。

地域に根差した活動

お客様や社会の期待を上回る製品・サービスの提供をはじめとする企業活動を通じて社会に貢献するよう努めます。また、企業市民として社会的責任を果たすため、地域社会に根差した活動に取り組んでいます。

日本

栃木研究所・本社・柏原工場（栃木県・埼玉県） YVAP※ 令和元年東日本台風災害ボランティア

実施日：2019年11月22日

最近時、想定外な自然災害が相次いでおきており、復旧に時間を要する事態も少なくないなか、企業として被災地に対しボランティア参加することにより、一日も早い復旧の手助けになるよう取り組んでいます。2019年に発生した「令和元年東日本台風」において、栃木県栃木市の災害ボランティアに参加しました。

※YVAP（ヤチヨ ボランティア アシスト プログラム）



鈴鹿工場・亀山事業所（三重県） レクイベントに合わせた海岸清掃

実施日：2019年7月20日

2019年7月、マリナー河芸にて浜辺のクリーン作戦を実施し、従業員とその家族合わせて165名が参加しました。このクリーン作戦はレクイベント『立て干し大会』とともに毎年開催しています。



陸上競技部による小学校陸上教室

実施日：2019年9月27日・2020年2月20日

陸上教室での指導を通じ、地域の皆さまとの交流に加え、選手の成長につながると考えています。陸上だけでなく、身体を動かすことの楽しさを教えることで子どもたちの無限の可能性を引き出すキッカケの後押しとなるようこれからも継続していきます。



陸上競技用車いすを用いた出張授業

実施日：2020年1月30日

パラリンピックに興味を持つ学校からの要望と、地域社会の多くの人に、パラリンピック競技や車いすマラソンに使用する車両について知ってもらいたいヤチヨの要望が合致し「特別授業」を実施しています。これからもより多くの方に知ってもらうため、継続していきます。



米州

ヤチヨ マニュファクチャリング オブ アメリカ エル エル シー (YMA) Women's Shelterに贈り物

2019年12月、YMAはキャロル郡のWomen's Shelter※と提携して、虐待を受けた母親とその子どもたちへ贈り物を届けました。

多くのアソシエイトの寄付によって、10家族を支援することができました。

※ドメスティック・バイオレンス（DV）などで虐待を受けた母親に退避所を提供する非営利組織



アジア

ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア (YTI) AEDを導入、関連地域への応急処置支援をスタート

YTIでは緊急事態が発生した際、迅速な傷病人の救命行為を目的として、インドネシアではまだ設置している会社が少ないAEDを導入しました。また、講師を招いて、AEDの使用方法をはじめとする応急処置の研修を行い、15人が応急資格を得ました。

周辺企業にお知らせしたところ、YTIのあるカラワン工業団地から病院まではかなりの距離があることから、多数の企業から協力依頼を受けました。



製品を通じた社会貢献

テックマチックシステム搭載車を新車発表と同時に披露

東京モーターショー2019にて、ヤチヨで開発しているテックマチックシステム搭載の新型フィットがお披露目となりました。テックマチックシステムとは、足の不自由な方が手でアクセルやブレーキの操作ができる運転補助装置です。これまでは新車発表から1・2年後に適合したテックマチックシステム搭載車を発売していましたが、お客様にいち早くテックマチックシステム搭載車をお届けし、喜んでいただけることを目標にHondaの企画段階から開発を進め、新車発表と同時のお披露目を実現できました。

東京モーターショーではご来場いただいたお客様に実際にお乗りいただき、早くこのテックマチックシステム搭載車に乗りたいというお声をいただきました。

ヤチヨは今後も皆さまと喜びを分かち合う事業や開発に積極的に取り組んでまいります。



Honda 新型フィット



新型フィットに搭載された
テックマチックシステム



テックマチックシステムを
お客様に体験していただく

基本的な考え方

ヤチヨは「人間尊重」「顧客第一」という基本理念に立脚し、株主や投資家の皆さまをはじめ、お客様、社会からの信頼をより高め、「社会からその存在を認められ、期待される企業」となるため、コーポレートガバナンスの充実を経営の重要課題の一つと認識し、その取り組みを行っております。

組織運営においては、世界各地のお客様の要請に応える事業運営を、迅速かつ適切に展開しながら、効果・効率の高い体制を構築しております。

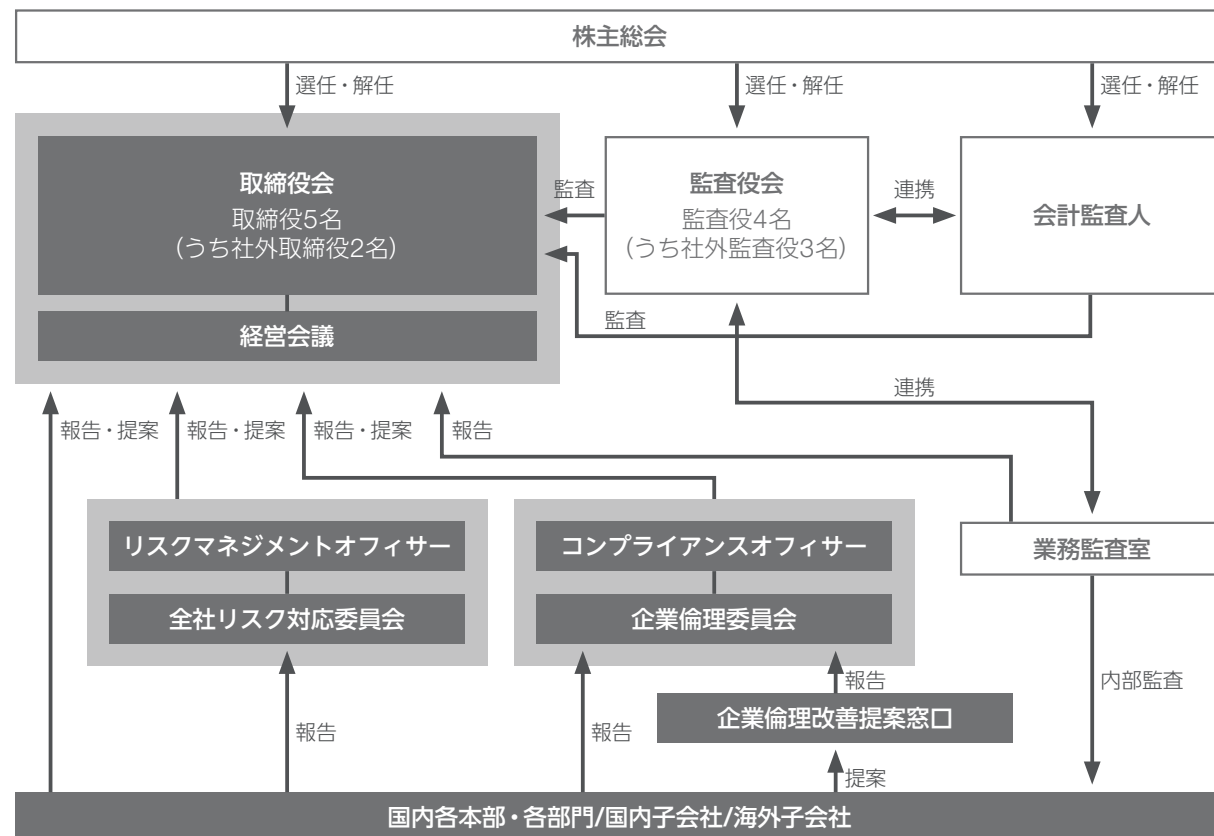
また、内部監査部門である業務監査室が各組織の業務活動全般の適法性、遂行状況について、効果的な監査を実施していくほか、各組織が自律性を高めながら、コンプライアンスやリスク管理に取り組んでおります。

経営の監視を客観的に行うため、社外取締役および社外監査役をおき、取締役会、監査役会において監督、監査を行っております。また、当社は、経営の監督機能と執行機能の分離、取締役会の機動性向上および経営の意思決定の迅速化を狙いとし執行役員制度を採用しております。

取締役については、経営環境の変化に対する機動性を高めるために、任期を1年としております。

株主や投資家の皆さまに対して、決算や経営政策の迅速かつ正確な公表や開示を基本とし、企業の透明性を今後も高めてまいります。

● コーポレートガバナンス体制の概要



コーポレートガバナンスコードへの対応

東京証券取引所が制定したコーポレートガバナンスコードにおける当社の対応は、下記の通りとなります。

株主の権利・平等性の確保

当社は、株主の権利行使や平等性の確保ができるよう、株主総会に関する情報のできるだけ早い開示（当社ホームページへの掲載）、株主総会集中日開催の回避など、権利行使の環境整備に努めているほか、会社の重要な決定をはじめ、株主にとって、有用性の高い情報を積極的かつ速やかに開示しております。

株主以外のステークホルダーとの適切な協働

当社は、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の創出においてさまざまなステークホルダーとの協働が必要不可欠と認識しております。

当社の社会への関わりや果たすべき役割などを示す「ヤチヨ企業理念」を制定し、「人間尊重」「顧客第一」という基本理念のもと、「社会からその存在を認められ、期待される企業」を目指して、事業活動を行っております。また、ステークホルダーの信頼をより確かなものにするため、当社で働く一人ひとりが共有する行動規範として「ヤチヨ行動規範」を定め、経営陣が先頭に立って実践し、広く浸透させることで、ステークホルダーの権利・立場や企業倫理を尊重する企業文化や風土づくりに努めております。

適切な情報開示と透明性の確保

当社は、経営の公平性や透明性を高め、ステークホルダーに正しく会社を評価・理解していただく上で、適切な情報開示を行うことが重要であると考えております。そのためには、法令に基づく開示情報だけでなく、株主をはじめとするステークホルダーにとって重要性が高いと判断した情報につきましては、任意で適時開示を行っております。また、当社ホームページなどを通じて、財務情報のほか、企業理念や経営計画、CSRへの取り組みなど会社に関係する情報を積極的に開示しております。

取締役会等の責務

当社は、取締役会および経営会議において、企業戦略等の方向性を決定しております。取締役会および経営会議では、経営幹部からの提案を随時受け付けており、上程された提案については、十分に審議しております。その実行にあたっては、経営幹部の意思決定を尊重しております。また、取締役、監査役の一部に社外役員を選任することで、取締役の職務執行に対して、実効性および独立性の高い監督体制を構築しております。

株主との対話

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上には、株主、投資家と積極的に対話を行い、意見や要望を経営に反映していくことが重要と考えております。そのため、社内にIR担当を設置し、積極的に株主や投資家との対話に努めております。具体的には、当社ホームページによる情報開示や決算説明会および機関投資家との個別面談などの活動を行っております。

リスクマネジメント

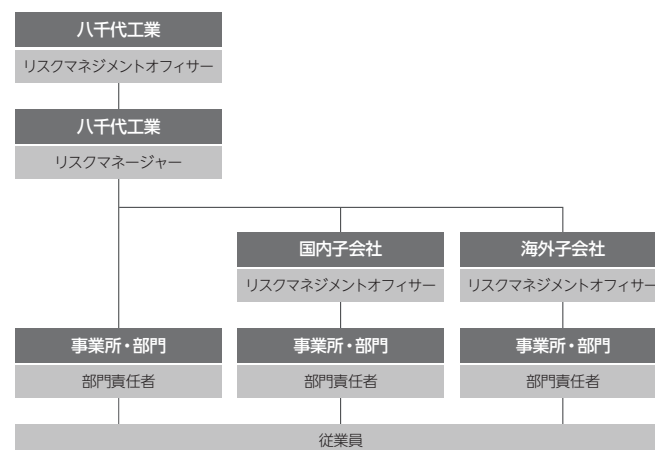
基本方針

企業を取り巻くリスクを認識し、その発生可能性の低下と発生時の影響低減を図ることで、ヤチヨで働く全ての人々と地域住民の安全と健康を守り、企業活動の発展を確保します。

重大な危機が発生した場合は、迅速な対応を行い、人命の安全を確保するとともに、被害を最小限に食い止め、早期復旧を図り、お客様への製品・サービスの安定供給責任を果たします。

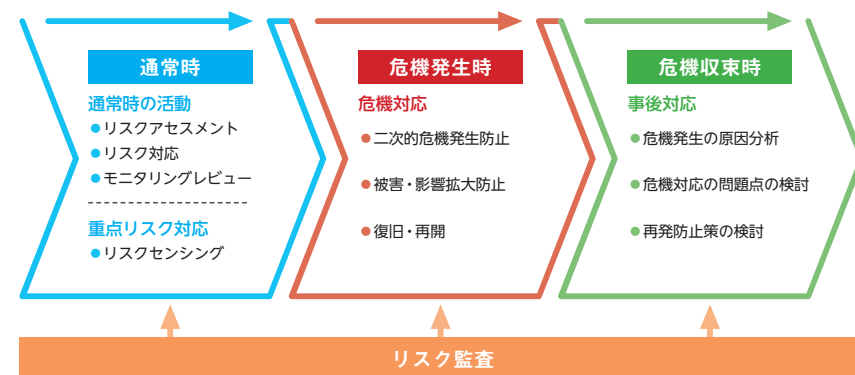
リスクマネジメント体制

グローバルヤチヨとして、リスクマネジメントへの取り組みをさらに迅速なものとするため、リスクマネジメントオフィサーおよび事務局との連携強化を目的とし、全ての事業所と直結の体制としました。



リスクマネジメント活動

ヤチヨは、経営の安定化や企業活動の発展を阻害する各種リスクについて、危機の発生を回避、また危機発生時の損失を低減するための一連のリスクマネジメント活動を行っています。



コンプライアンス

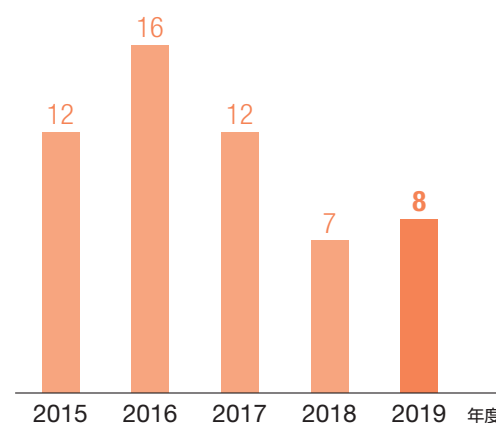
企業倫理改善提案窓口

ヤチヨは、企業倫理に関する問題の改善を図る仕組みとして「企業倫理改善提案窓口」を設置しています。本窓口に寄せられた提案については、提案者が不利益を被ることのないようプライバシーの保護を図るとともに、公平・中立な立場で客観的に調査を実施し、適切な措置・対策を講じています。

提案は、eメール、電話、手紙、FAXが活用でき、匿名での提案も受け付けています。また、女性が提案を受け付ける「セクハラ提案窓口」の設置や、外部窓口を設置することにより、提案しやすい環境の整備を図っています。

2019年度、「企業倫理改善提案窓口」（セクハラ提案窓口、外部窓口含む）への提案は8件ありましたが、すべて対応は完了しております。

● 企業倫理改善提案窓口提案件数の推移



適時・適切な情報の開示

透明性の高い企業であり続けるために、株主・投資家の皆さまに適切な情報開示の促進を図り、積極的なコミュニケーションを取ることが重要であると捉えています。

6/25

第66回 定時株主総会開催



事業方針説明会開催・製品展示



11/6

第2四半期決算説明会

11/28

株主通信発行



2019

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

2020

1月

2月

3月

5/13

通期 決算説明会 開催

5/28

招集通知発行（株主通信）



9/28

社会・環境報告書発行

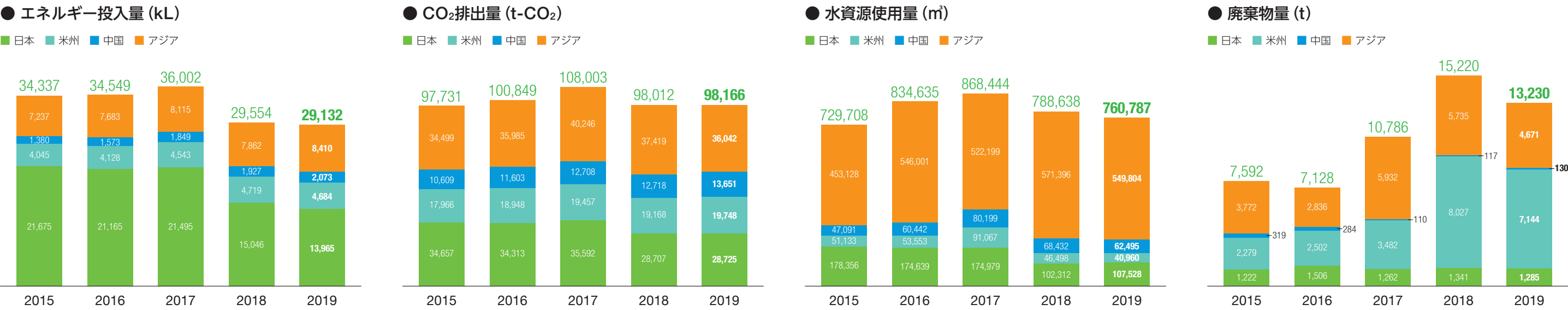


10/29

アニュアルレポート発行



環境データ



地域	対象事業所	エネルギー資源										廃棄物
		電気 (MWh)	プロパンガス (kg)	都市ガス (千m³)	天然ガス (千m³)	灯油 (kL)	ガソリン (kL)	軽油 (kL)	重油 (kL)	E20エタノール／ ガソリン (kL)	水 (m³)	処分量 (t)
日本	本社および柏原工場 (正規従業員：390名)	11,791	8,620	431	0	0	0	0	0	0	25,565	326
	鈴鹿工場 (正規従業員：82名)	5,762	0	820	0	0	0	0	0	0	25,708	133
	亀山事業所 (正規従業員：137名)	8,662	0	416	0	0	0	0	0	0	17,197	224
	栃木研究所 (正規従業員：119名)	4,266	2,289	0	0	27	0	0	0	0	4,376	53
	埼玉研究所 (正規従業員：139名)	1,898	480	0	0	0	0	0	0	0	5,674	54
	合志技研工業株式会社 (正規従業員：327名)	4,211	147,606	321	0	266	7	4	576	0	15,358	394
	株式会社ウエムラテック (正規従業員：138名)	2,961	16,314	0	0	1	4	1	0	0	4,283	67
	株式会社合志テック (正規従業員：73名)	1,301	103	0	0	11	5	18	0	0	9,367	33
米州	ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド (正規従業員：58名)	1,136	0	0	24	0	0	0	0	0	453	34
	ユーエス ヤチヨ インコーポレーテッド (正規従業員：362名)	23,094	65,351	0	217	0	0	16	0	0	10,555	4,652
	エーワイ マニュファクチュアリング リミテッド (正規従業員：300名)	3,626	0	0	523	0	0	0	0	0	12,690	738
	ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エルエルシー (正規従業員：177名)	8,370	0	0	0	0	0	0	0	0	5,035	892
	ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エスエー デ シーブイ (正規従業員：146名)	3,010	3	0	0	0	0	6	0	0	8,448	486
	ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ベサス リミターダ (正規従業員：50名)	2,905	3,733	0	0	0	0	1	0	0	3,779	341
中国	八千代工業 (中山) 有限公司 (正規従業員：515名)	9,968	0	0	18	0	18	0	0	0	34,097	31
	八千代工業 (武漢) 有限公司 (正規従業員：669名)	11,709	0	0	17	0	16	0	0	0	28,398	99
アジア	サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド (正規従業員：432名)	11,634	185,269	0	0	0	0	0	0	0	102,261	183
	ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド (正規従業員：55名)	3,010	0	0	0	0	24	62	0	0	3,990	0
	ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア (正規従業員：71名)	1,708	0	0	0	0	0	1	0	0	3,502	77
	サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド (正規従業員：847名)	18,740	14,400	0	920	12	0	7	0	43	213,483	1,493
	ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド (正規従業員：285名)	2,888	0	0	0	0	0	527	0	0	3,060	690
	ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド (正規従業員：1,399名)	22,055	536,776	0	0	0	42	40	0	0	153,746	1,442
	ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド (正規従業員：398名)	2,843	93,213	0	0	0	11	21	5	0	69,762	786

財務ハイライト

連結財務関連データ

百万円（1株当たり情報および財務指標を除く）

	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期
売上収益（継続事業）	149,816	138,979	165,562	161,160	154,629
税引前利益（継続事業）	11,333	8,982	9,223	928	807
当期利益又は当期損失（全事業）	6,957	6,884	7,555	△1,697	△ 1,838
親会社の所有者に帰属する当期利益又は当期損失（全事業）	4,715	4,743	4,796	△4,335	△ 3,169
当期包括利益（全事業）	△614	6,788	6,849	△2,521	△ 4,810
親会社の所有者に帰属する持分	51,651	55,475	59,008	53,157	47,386
資産合計	117,842	130,943	131,278	118,832	117,219
1株当たり親会社所有者帰属持分（円）	2,150.92	2,310.16	2,457.30	2,213.64	1,973.31
基本的1株当たり当期利益又は基本的1株当たり当期損失（円）	196.36	197.51	199.73	△180.51	△ 131.97
希薄化後1株当たり当期利益（円）	—	—	—	—	—
株価収益率（倍）	4.7	6.5	6.7	—	—
親会社所有者帰属持分比率（％）	43.8	42.4	44.9	44.7	40.4
親会社所有者帰属持分利益率（％）	8.9	8.9	8.4	△7.7	△ 6.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,425	9,480	19,125	13,581	12,844
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,620	△9,163	△9,325	△8,962	△ 11,465
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,075	1,007	△7,488	△3,197	4,601
現金及び現金同等物の期末残高	15,472	16,693	19,010	20,470	25,121

1. 国際会計基準（以下「IFRS」という。）に基づいて連結財務諸表を作成しております。
2. 売上収益には、消費税等を含めておりません。
3. 百万円未満を四捨五入して記載しております。
4. 希薄化後1株当たり当期利益については、希薄化効果を有する株式が存在しないため記載しておりません。
5. 2019年3月期および2020年3月期の株価収益率については、当期損失であるため記載しておりません。
6. 2018年3月期（2017年12月18日）開催の取締役会において、完成事業を本田技研工業株式会社に譲渡することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結したことに伴い同事業を非継続事業に分類し、2017年3月を組換後の数値にて記載しております。なお、2016年3月期は非継続事業を含めた数値にて記載しております。

集計対象期間

2019年度（2019年4月1日~2020年3月31日）

対象事業所

〈国内〉

八千代工業

本社および柏原工場（埼玉県狭山市）
鈴鹿工場（三重県鈴鹿市）
亀山事業所（三重県亀山市）
栃木研究所（栃木県さくら市）
埼玉研究所（埼玉県狭山市）

国内子会社

合志技研工業株式会社（熊本県合志市）
株式会社ウエムラテック（熊本県球磨郡あさぎり町、熊本県合志市）
株式会社合志テック（熊本県合志市）*
※2020年4月より、合志技研工業株式会社と統合

〈海外〉

八千代工業 海外子会社

ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド（米国）
エーワイ マニユファクチュアリング リミテッド（米国）
ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド（米国）
ヤチヨ マニユファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー（米国）
ヤチヨ メキシコ マニユファクチュアリング エス エー デシー プイ（メキシコ）
ヤチヨド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ（ブラジル）
八千代工業（中山）有限公司（中国）
八千代工業（武漢）有限公司（中国）
サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド（タイ）
ヤチヨ インディア マニユファクチュアリング プライベート リミテッド（インド）
ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア（インドネシア）

合志技研工業 海外子会社

サイアム ゴウシ マニユファクチュアリング カンパニー リミテッド（タイ）
ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド（ベトナム）
ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド（インド）
ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド（フィリピン）

〈対象としていない子会社および関連会社〉

- 対象期間における事業活動を行っていません。
ラグナ アソシエ リアルティ インコーポレーテッド（フィリピン）
- 事業活動を現地賃貸事務所で行っており、含めていません。
ヤチヨ ジャーマニー ゲー エム ペー ハー（ドイツ）

発行サイクル

年1回（前回発行：2019年9月）

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン（2018年版）」および「GRIスタンダード（サステナビリティ報告ガイドライン）」。

■環境情報の公開

ヤチヨは、企業ウェブサイトを通じて環境への取り組みを公開し、本報告書を掲載しています。

八千代工業ウェブサイト「CSRへの取り組み」

<https://www.yachiyo-ind.co.jp/profile/csr/>





八千代工業株式会社

〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393

TEL : 04-2955-1211 (代表)



発行2020年9月